

PROGRAM NOTE

2003

近藤譲：冬青（そよご）

ヴァイオリンとピアノのための

Ilex

for Violin and Piano

ヴァイオリンとピアノのための《冬青(そよご)》は、Rosco からの委嘱で書かれた作品である。私は、これまでも、ヴァイオリンとピアノのための曲を含めて、旋律楽器とピアノの二重奏のための作品をいくつか書いてきた。それらの曲では、丁度、十八世紀に流行った旋律楽器のオブリガートを伴うピアノ曲でのように、音楽の持続を形成する構造の主体は専らピアノ・パートに在り、旋律楽器のパートはほとんど独立性を持っていなかった。そして、この《冬青》は、ヴァイオリンに対するピアノの構造的優位性を或る程度まで保ってはいるが、又、音楽構造に関する最近の私の関心を強く映してもいる。即ち、この作品で私が実現を試みたのは、或る種の「両義的な構造」、言い換えれば、それは、一方の楽器が他方の伴奏になるのでもなく、対等な両者の間の対位法的関係でもなく、又、両者が完全に一体となって単一の音楽的持続を成すことでもない、それら全ての中間の状態。つまり、両者が合して単一の音楽的持続を成しているようではあるが、同時にそれぞれがある程度の音楽的独立性をも示すように聴こえるという構造である。

近藤譲

初演：2003年11月（東京）

初演者：甲斐史子(ヴァイオリン) 大須賀かおり(ピアノ)

委嘱：Rosco

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ZIP-0015, ALCD-93

演奏時間：10分